

〔福田恒存理解には関係論が重要〕

〔福田恒存著:小林秀雄の『考へるヒント』〕から《小林秀雄とソクラテスとの相似性》:「不知・汝自身(物:場 C')」への対應。

〔小林秀雄〕《関係論》: *①知らぬ事[不知・汝自身(物:場 C')] ②『歴史』『物』等著作(物:場 C') ⇒からの關係: ①を知らぬとの自覺が知の力(D1の至大化)・①②を「③考へるヒント[手掛り・手續(D1の至大化)]」こそ最も純粹(D1の至大化)、最も激しい行爲(D1の至大化) ⇒「④懷疑主義・不可知論(F)」⇒④とは全く無縁のもの(④への距離把握:Eの至小化) ⇒小林秀雄(△枠): ①②への適應正常。

*①對象(物:場 C') ②『歴史』『物』等著作(物:場 C') ⇒からの關係: ①②を「③考へるヒント[手掛り・手續(D1)]」こそ最も純粹(D1の至大化)、最も激しい行爲(D1の至大化) ⇒終點[④答へ・結論(③の對立的概念:F)] ⇒④を「⑤豫期しない(Eの至小化)」。目的とはしない(Eの至小化) ⇒小林秀雄(△枠): ①への適應正常。

〔ソクラテス〕《関係論》: *「ソクラテスは方向を轉回し、凡そ物(物:場 C')を考へる(D1)出發點も終點も『汝自身[不知(物:場 C')]を知る(D1の至大化)』事にあると悟つた【即ち、汝自身[不知(物:場 C')]を『考へる(D1)事それ自體が目的(D1の至大化)』として『考へる手續(D1)を實行(D1の至大化)】」(「プラトンの『國家』」)。

《関係論》: *①汝自身[不知(物:場 C')] ⇒からの關係: ①を『②考へる(D1の至大化)事それ自體が目的(D1の至大化)』 ⇒「③懷疑主義・シニスム」(②の對立的概念:F) ⇒③は女々しいジェスチャーと切捨て[③への距離獲得(Eの至大化)] ⇒ソクラテス(△枠)。

